

応募内容

「若モノ×議会」まちづくりワークショップで身近な議会に

御宿町は、人口 6,932 人、高齢化率は千葉県下ダントツトップの 52.45%の海辺の小さな町です。かつては月の沙漠、夏の海水浴で賑わいましたが、近年では観光客数は大きく落ち込み、苦境が続いています。

この苦境を打破するためには、若い人たちのエネルギーと柔軟な発想が必要であることは強く認識しながら、この町における‘圧倒的な少数派’である若者たちの声をどうやって町政に生かすかが大きな課題でした。

また、町政における施策の策定時に住民の意見に耳を傾けない町長の姿勢に対して、住民にとって「身近な議会でありたい」という思いが強くなっていき、まずは議員活動を知ってもらうためにも、ワークショップを開催しようということになりました。

しかし、どうやればいいのか模索していた時、令和 5 年 2 月の議会講演会に講師としてお招きした松下啓一先生（地方自治研究者）に、ワークショップ開催について相談したところ、「失敗はない、思い切ってやってみろ」という力強いお言葉を頂戴し、さっそく 4 月に市が主体となって市民会議を実施している焼津市を視察。その手法を踏襲する形で急ピッチで準備を進め、約 3 か月後の 7 月には、初めてのワークショップ開催を実施。手探りで進めていく中で、一番の課題は参加者が集まらないことでした。当初の応募数はたったの 2 名だったため、各議員による個別勧誘やイベント会場での勧誘、近隣の高校へ直接赴くなどした結果、最終的には高校生 4 名を含む 17 人（平均年齢 28.7 才）が参加。住民視点での意見やアイデアが集まるとともに、次も参加したいと評価をいただきました。

約半年後の第 2 回ワークショップでは、高校生 7 名を含む 19 人（同 32.2 才）が参加し、テーマを絞ったことでより具体的な提案を頂きました。

1 回目の宿題であった“子連れ参加”についても、会場内に子どもの遊び場を設置して好評を得ました。

前回参加していた地元高校生が、ファシリテーター（司会進行）を引き受けてくれて、見事に会場をまとめていただきました。本人も自信がついたようで、参加した高校生達は同世代が活躍していることに刺激を受けていたようでした。

今後、ワークショップで出たアイデアは、議会でもまとめて書面にて首長に提案します。また、そのやり取りを住民と共有していくことで早期実現を目指すなど、挑戦は続きます。

やればできた！「議会報告会」「費用0円によるインターネット中継」 「DX研修会」

令和6年2月には、町と議会の意見が合わない問題を住民に説明するための「議会報告会」を初めて開催し、続けて7月にも第2回議会報告会を実施。議会に対して批判的な住民も多い中、ワークショップに参加したお母さんたちが参加して発言するなど、台本のない“ガチンコトーク”での報告会を実施することで、少しずつ住民の意見が議会に伝わり始めました。

また、同時期に「デジタル化推進委員会」を立ち上げ、手始めに「インターネット中継」の実現に向け、安価でネット中継を実施している大網白里市議会に令和6年4月に視察。以後たったの2か月の準備期間を経て、議員が所有するカメラやパソコンを利用し、知恵と工夫により費用0円で6月定例議会のインターネット中継（実証実験）を開始しました。住民たちが集まって中継をみたり、子育て世代の方も議会の様子を見ることができ、会議録ではなく「生の議会」に触れる機会によって多くの方に視聴いただいて、「これからも続けてほしい」と、とても好評でした。

順調に進めば機材を町予算で購入し、令和7年度から本格運用を開始する予定です。

さらに、8月には、議員と知り合いで町在住の元大学教授に、議員と職員向けに「DXとはなにか、その活用方法研修会」を実施予定です。

私たちの取り組みのPRポイントは、何とんでもフットワークの軽さ、スピード感です。今後も失敗を恐れず、失敗から大いに学ぶつもりで、小さな成功を積み重ね、さらに加速しながら、町民の皆さんの期待に応えていきたいと思っています。